

愛媛県新居浜市別子校区
地区防災計画



わたしたちの別子山 みんなの別子山

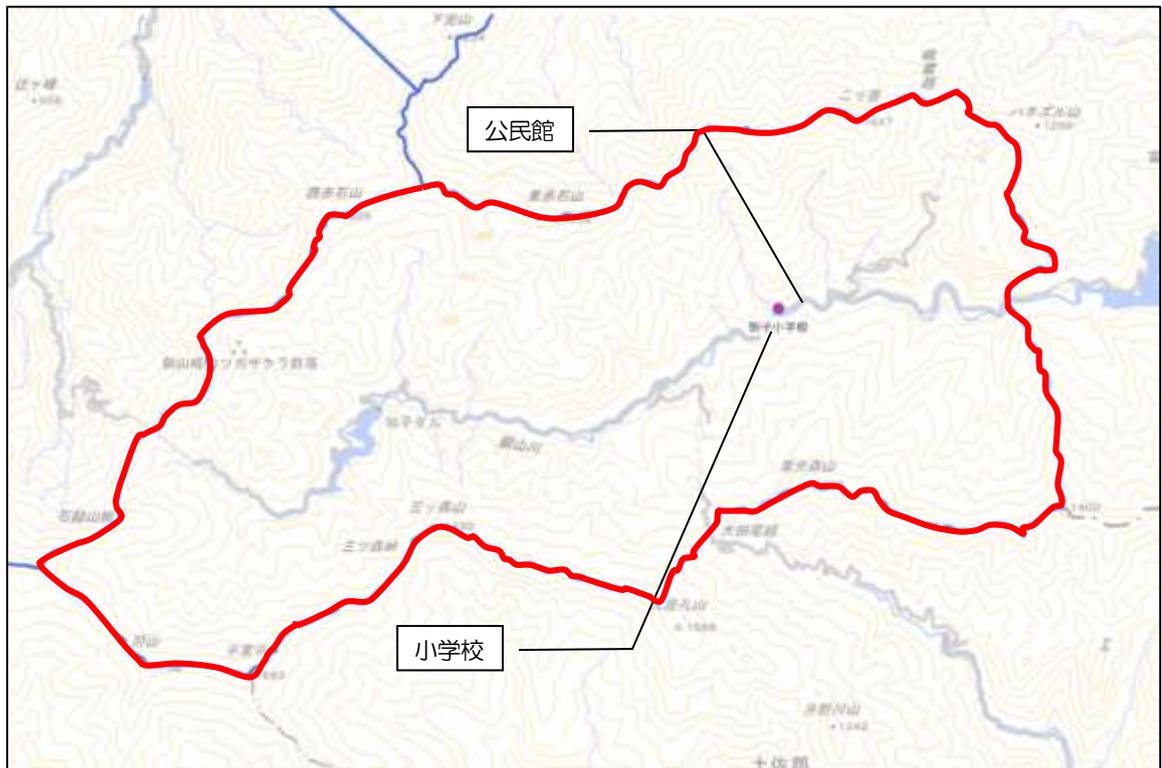
令和4年3月

1 別子校区の概要

(1) 新居浜市位置図



(2) 別子校区位置図



(3) 別子校区の特性

別子校区は、赤石山系を経て新居浜市の南側に位置し、高知県境との谷合に居住地が存在しています。標高約1,800m赤石山と高知県と接する石鎚山系に挟まれており、中央部には、一級河川吉野川水系銅山川が四国中央方面に流れており、上流域には、別子ダムが存在し、工業用水及び発電を目的と運用されています。旧別子として、銅山峰嶺南には、過去に繁栄した別子銅山の跡地として別子銅山の産業遺産が多数存在しています。

校区には別子小中学校、別子公民館が立地されており、災害時には避難所として活用されることとなります。

2 地域の概要

(1) 世帯・人口構成及び比率

(令和3年12月現在)

世帯	比率	人口	比率	男性	比率	女性	比率
81	0.1	128	0.1	62	0.1	66	0.1

(2) 避難行動要支援者数

(令和4年3月現在)

対象者数	同意	不同意	その他
11	9	2	0

3 自然特性・地域特性（地域で起こりうる災害）

(1) 被害想定

想定震度	津波浸水深 浸水開始時間	液化化危険度	土砂災害 警戒区域	国領川 洪水浸水	ため池浸水
6強	なし	なし (PL=0)	R：あり Y：あり	なし	なし

(2) 地理的特性

流域河川（1級河川・普通河川）	銅山川、芋野谷川、大野谷川、暗谷川、七番川 新山谷川、中藪谷川、夏切谷川、肉淵谷川 日浦谷川、保土野谷川
土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域	肉淵、弟地、床鍋、芋野、瓜生野、東宮、小美野 草原、谷内、余慶、横道

(3) 想定される災害

災害種別	被災内容	備考
地震	想定震度7（建物被害）	
土砂災害	土石流・急傾斜地の崩壊	

4 防災の取組状況（予定）

取組時期	取組内容	対象
時期未定	資機材取扱訓練（エアベクト取扱訓練）	地域住民
時期未定	資機材取扱訓練（発電機取扱訓練）	地域住民

5 災害時の課題

区分	課題
地震	古い家屋の倒壊 地震により火災が発生して近隣に燃え移る。 住宅密集地での火災 住宅火災から山林へ延焼拡大
水害・土砂	別子ダム決壊による全世帯孤立 瓜生野地区山側からの土砂 大雨による土砂の流出で道が寸断、避難に支障が出る 新保土野橋倒壊 電話不通、道路寸断、大規模停電発生

6 災害時の現状

区分	現状
地震	土砂崩れにより、ガソリンスタンド従業員が現地へ辿り着けない。
水害・土砂	安全と思われる場所が少ない
避難所開設運営	ライフラインが弱い。 自宅に留まりたい住民がいる。(避難の遅れ) 避難所が遠く自力で行けない。 避難が長引いた場合の食糧や燃料の確保
自助共助の向上	発電機等の設備のメンテナンスが不十分である。
要支援者の支援	要支援者の移動手段及び要支援者との連絡手段
その他	積極的な避難が少ない。

7 災害時の対策

区分	対策
地震	燃料の備蓄をしておく。
水害・土砂	自主的な避難場所の開設運営
避難所開設運営	発電機等のリスト作成、管理 無線機・発電機の点検を定期的実施する。 備蓄品の確保
自助共助の向上	各自治会の機器のメンテナンス 外部との通信確保 自治会単位での灯油等の備蓄
要支援者の支援	集落ごとの声掛け
その他	広報等を活用した避難広報の実施

8 緊急避難場所及び避難所

施設名		収容人数		使用制限
		緊急避難場所として	避難所として	
別子公民館		284	71	
別子小・中学校	校舎	852	213	
	体育館	696	174	
	グラウンド	2,126		地震（北側）×
中部集会所		110	28	
東部集会所		110	28	風水害×
大成集会所		110	28	風水害×
別子山市民運動公園		11,380		地震（西側）×

9 自主的な緊急避難場所

施設名	受け入れ自治会	使用制限	備考
なし			

10 防災活動計画（5ヶ年計画）

実施内容	年度計画					目標
	R4	R5	R6	R7	R8	
防災資機材の点検整備 (自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	見直	配備している防災資機材(発電機)の点検整備を定期的実施する。
情報伝達訓練 (自治会)	検討	実施	⇒	⇒	⇒	アマチュア無線などを活用しての情報伝達訓練を実施する。
家庭単位の備蓄品の整備 (個人)	検討	⇒	実施	⇒	⇒	家庭における備蓄品(水)の計画的に購入整備を図る。

※ 上段：実施内容
下段：実施対象